



たか はし まさ いち
高橋 政一
(市民クラブ)

●子ども・若者育成支援の現状と課題は ●学校教職員の安全衛生管理規程の実効化は

質問 2010年4月から「子ども・若者育成支援推進法」が施行された。ニートや引きこもり、不登校、発達障がいなどの学校・社会不適應など、子ども・若者の抱える問題が深刻化している。支援の現状と課題は何か。一ノ関若者サポートステーションとの連携は。

市長 15歳から39歳までを対象とした制度で、子ども・若者支援相談員を配置して家族等の相談に対応しながら、保健所や警察等関係機関と連携して、青少年等の実態把握に努めている。先進事例を調査し実態をつかみながら、子ども・若者計画の作成や支援地域協議会の設置に向けていきたい。一ノ関若者サポートステーションの活動を紹介しながら連携していく。

質問 2011年に安全衛生管理規程が策定され2年余が経過した。当初かなりの期待感を持ったが、取り組みが進んでいない。やっと実施された職場実態調査の結果と規程の実効化に

どう取り組むのか。

教育委員長 平日1週間の超過勤務は1〜2時間が最も多く、次いで2〜3時間となっている。平成24年度の公務災害は8件あったが、現在では完治している。病気休職は8人であったが、半数は精神疾患である。実効化のため各学校に周知を図ってきている。活動事例の交流や学校巡回訪問などを通して、各学校での安全衛生管理が図られるように取り組む。

5〜6月の勤務が平均的な1週間（平日）の調査
◎1日平均の超過勤務時間（％）

	全体	小学校	中学校
なし	0.6	1.4	0.0
30分以内	4.0	4.1	4.0
30分超〜1時間以内	15.4	21.6	10.9
1時間超〜2時間以内	34.3	29.7	37.6
2時間超〜3時間以内	25.7	23.0	27.7
3時間以上	20.0	20.3	19.8

回答数：小学校5校74人、中学校5校101人



たか はし みす お
高橋 瑞男
(政凜会)

●市立病院・診療所改革プラン策定に住民の声は反映されたか ●赤字病院は廃止なのか ●ベット休床化、先生の声はどうか

質問 市立病院・診療所改革プラン(案)策定について市民の声を聞いたのか。またプランの見直しはしないのか。

市長 庁内検討組織の「地域医療計画策定委員会」で原案を検討、さらには専門委員会、地域医療懇話会から意見をいただいた。今後は市民説明会を行い意見を頂く。

質問 赤字病院、診療所廃止の声も聞くが病院、診療所の経営指導は行ったのか。

市長 水沢病院は経営改善に取り組む、高い評価が出た。まごころ病院も高く評価された。前沢診療所は医師一人では入院病床の継続は困難と考える。一般会計の繰出金は、2病院・9診療所合計で、平成24年度は18億2200万円となっている。多額の繰入金が必要となっているが、経費節減に各施設とも努力している。

質問 ベット数(前沢診療所19床、衣川診療所19床)により看護師の確保が影響されていると

思うがベット数の見直しは行わないのか。また両診療所とも看護師の人員は適正なのか。

市長 休床ベット数の見直しであるが今回提案するプランは前沢及び衣川診療所の病床部門を休止する案である。病床機能の一部残すことは入院患者の多寡にかかわらず医師の常駐、夜間勤務看護師の過重労働につながるので休止する案としたい。

質問 衣川、前沢診療所の先生方はベットの休床化に反対なのか、賛成なのか。

市長 衣川、前沢診療所の両先生とも休床化に反対である。



奥州市国保衣川診療所